

教職大学院 News Letter

協創

第3号2016.12.20
Since2016

特集「授業」

本学教職大学院では、必修科目の多くを特定連携協力校^{※1}で実施しています。どの授業も研究者教員と実務家教員^{※2}が協働で進めま

第1領域「教育課程編成の理論と実践」

(場所 上所小)

担当：宮菌衛，小久保美子，高木幸子，兵藤清一

4月20日、「教育課程って何？」，兵藤先生から問いが投げかけられ，授業が始まりました。この授業では，学習指導要領の歴史の変遷に基づき，教育課程の構成要素，編成対象，編成原理に対する理解を深めた上で，各自の課題意識に基づいた教育課程編成案の作成を通して，教育課程の編成・実施・評価・改善の方法について学びました。さらに，この成果を11月19日（土）に開催された上所小学校研究発表会にて教職大学院ブリッジ講座として公開し，教職員や地域の方々と協議する機会を得ることができました。

(高木幸子)

・・・院生の声・・・

教育課程を編成する意義や目的を理論的，実践的に学びました。教育課程を編成する際には，子どもたちの未来の姿を想像しながら育てたい子ども像を明確にすること，そして目標と内容と方法をバランスよく組織することの必要性を改めて感じました。講義の中では，実際に各自が教育課程の編成案を作成しました。疑問点・改善点などを他の院生と検討する中で，カリキュラムマネジメントについても意識する機会をもつことができました。（教育実践コース^{※3}

現職院生^{※4} 木村杏子

第2領域「授業研究の理論と実践」

(場所 浜浦小)

担当：小久保美子，高木幸子，一柳智紀，井口浩，兵藤清一

この授業では，浜浦小での研究授業・協議会に参加し，浜浦小の授業実践から学ぶことを大切にしています。具体的には，先生方がどのように授業を分析し，協議しているのかを学び，さらに子どもの学びや教師の授業デザイン，教材解釈等，参観した授業について幅広く議論を行いました。こうした学びを活かすために，院生自身が授業を実施し，その協議会もデザインする機会を設けています。

このように，実際の授業に基づいて授業を分析する理論や方法を学び，授業改善に向けた知見を自ら生み出すことで，院生各自の実践につながることを期待しています。

(一柳智紀)

・・・院生の声・・・

特定連携協力校である新潟市立浜浦小学校を学びのフィールドとしながら，教室場面における子どもの学びの実態から授業分析を行いました。参観した授業の具体的な事実から理論的な視点に基づく分析を通して，授業への理解を広げることができました。また，ディスカッションを中心に据えた演習形式の授業の中で，自校や自身の授業における課題と照らし合わせながら考え，実践につなげることを目指し，学びを深めました。（教育実践コース

現職院生
齋藤誠也)

第3領域 「発達理解の理論と実践」

(場所 上所小)

担当：中島伸子，吉澤克彦，松井賢二，横山知行

授業は、乳幼児期から思春期までの子どもの発達を扱いました。小中高の教員が当該時期の児童生徒の発達だけでなく、乳幼児期からの発達を追うことで、児童生徒の状況を理解するための広がりを持った視点を獲得することを目指しました。

ジグソー法などを用いた協議と講義とを組み合わせ授業を構成しました。内容としては、認知能力や学びに向かう力の発達理解と支援の在り方について、乳幼児期，幼小接続期，小中接続期など，発達期ごとの特徴を捉えた上で学校現場における課題を踏まえて考察しました。また，幼稚園や幼小連携，キャリア教育，脳科学，愛着障害，不適応といった視点もゲストティーチャーの講義などで扱い，考察の幅を広げ，発達理解を掘り下げていきました。ゲストティーチャーは，附属幼稚園や県内小学校の教員，医学部協力教員など延べ7名。さらに，特定連携協力校の上所小学校での参観授業を踏まえて考察を行うなど，理論と実践の往還を実現できたと考えています。(吉澤克彦)

・・・院生の声・・・

この講義では，幼児期から児童期にかけて子どもがどのような過程をたどって成長していくのか，ということを知りました。私は，これまで，「学校教育を通じて子どもにどのような力を身につけさせるのか」という視点を中心に勉強や実践を行ってきましたが，この講義を通じて，「幼児期から育ててきた子どもの力を学校教育の中でどうやって伸ばしていくか」という新たな視点をもつことができました。

(教育実践コース 学部新卒院生^{*4}
長谷川美鈴)**第3領域 「生徒指導の課題と実践」****(集中講義)**

(場所 五泉市福祉会館，村上市文化会館，新潟市教育相談センター)

担当：神村栄一，吉澤克彦

五泉市(8月2日)，村上市(同4日)，新潟市(同18日)に，教育委員会・相談センターのご協力を得て実現した授業でした。現職院生3名には，所属先の学校学区の先生方と共に，チーム・連携関係で対応している「進行中」の事例提供をしてもらいました。有り難いことに，会場の市内学校からも，困難事例への支援をリアルに報告いただきました。参加者全員が「守秘義務遵守の誓約書」に署名し，緊張感ある中での授業でした。理想や理論でなく，実際の事例を教材にひたすら実践力を高めるための演習が繰り返されました。校内事例検討の進め方そのものも検討の対象とされました。実践なき評論家はどこでも「初めから結論ありき」となります。自己〇〇感などの抽象語，家庭の教育力などの言い訳を並べたがりません。現場で子どもたちに変化を生むためには具体的に何が必要か。履修院生の授業感想から，それぞれに学ぶものがあつたことがうかがえました。あらためて，ご協力いただきました皆様に感謝申し上げる次第です。(神村栄一)

**・・・院生の声・・・**

進行中の事例を持ち寄り，院生と小中高教員や相談員，専門家等が熱心に議論する会は問題解決だけでなく，相互の学びや連携強化に資する貴重な機会となりました。特に印象的だったのは，相談員がわずかな情報を基に方針を定め，関わりの中で支援していく事例です。問題の背景等の情報は欲しいものですが，限られた情報の中でも見立て，共有し，誰が・何を等具体的な役割分担まで含め，次の一手を決められることが大切だと学びました。

(教育実践コース
現職院生 金子暢也)

第4領域 「地域教育経営の理論と実践」

(場所 小針中)

担当：雲尾周，高橋雄一

生涯学習社会の実現という観点から学校内外の教育資源の選択と活用をとらえなおし、地域協働、教職員の力量開発・向上にもつなげる「地域教育経営」の概念を形成し、感覚を研磨しようとしています。

経営とは何かを明らかにするために経済学部の教授、財政的視点から学校経営を分析するために新潟市の管理主事から講義を受け、その上に立って、実際の学校経営に携わる特定連携協力校中学校区の中学校長と近隣校の小中学校長によるシンポジウムの開催という講義構成は極めて斬新です。

一方で、院生は自分の中学校区を講義等で学んだ視点から見直し、ルーブリックによる「デザイン・実践」を活用して、学校教育の地域における資源等の活用・連携を構想しています。これら一連の学びによって育成される学校経営観と具体的な連携デザイン力こそこれからの地域と共に歩む学校づくりを主体的に担わなければならない教員の重要な資質・能力の育成に大きく寄与するものと考えられます。

(高橋雄一)

・・・院生の声・・・

経済学部の教授や現場の校長先生，教育委員会管理主事から具体的な事例を基に，学校経営に必要な視点を学ぶことができました。また，SWOT分析を用いて自校の課題分析をし，課題解決のプロセスを学ぶこともできました。学校経営に求められていることを実効性のあるものへと高めていく方法を知り，学校改革への意欲を高めることができました。

(学校経営コース^{*3})

現職院生 舘岡信也)



第5領域 「地域の教育課題と学校・教師」

(場所 浜浦小)

担当：相庭和彦，雲尾周，向山恭一，金子淳嗣

本授業の目標は、「地域社会における学校・教師の役割を地域創生・伝統文化の継承・人権の尊重の観点から理解し，それを教育実践活動に生かすことができるようになること」です。

この目標を達成するため，地域の教育課題にかかわる問題提起を基に，小グループで熱い議論を交わし，新たな学びを全員で共有することを大切にしました。

また，院生一人一人の見方や考え方が広がり，学びが深まるよう，講師を招いて国際理解教育のワークショップを開き，自分たちが決めたテーマでワークショップづくりに挑戦する機会を設けました。

さらに，地域の活動に積極的に目を向けていくことができるよう，新潟市の先進的な生涯学習関連施設（中央図書館，若者支援センター，生涯学習センター，中央公民館）の見学を行いました。

このような多様な学びを通して，地域社会における学校・教師の役割を見つめ，それぞれの実践に生かしています。

(金子淳嗣)

・・・院生の声・・・

大学の先生方からの理論の学びは勿論のこと外部指導者による講義やワークショップ，新潟市内の地域教育計画の説明や諸機関を回るフィールドワーク等，主体的な学びや多くの気づきを得ることができました。

それらの学びの中で，時代背景や地域社会の変化，地域の伝統文化を把握しながら，柔軟な地域教育計画を推し進める必要性を強く感じました。それは，学社民の融合による地域教育力向上にもつながると思っています。

(学校経営コース)

現職院生 大矢康之)



第6領域 「通常学級における 特別支援教育の実際Ⅱ」

(場所 大学)

担当：長澤正樹，古田島恵津子

今学校では発達障害特性をはじめ，特別な教育的ニーズを有する児童生徒が増えています。ひとりひとりのニーズに合った教育を提供することも大事ですが，多様性に対応する学級経営や授業実践も大事です。

「通常学級における特別支援教育Ⅱ」では，多様性に対応できる学級経営や授業づくりの基になる理論として，「学習のユニバーサルデザイン」を中心に展開しています。もちろん理論を講義形式で説明するだけではなく，実際に指導案を作成し，その内容についてグループで議論し合う活動も取り入れています。院生の皆さんが，この授業での学びから，さらに研鑽を重ね，これからのインクルーシブ教育システムの時代にふさわしい実践ができるようになることを期待します。

(長澤正樹)

・・・院生の声・・・

保護者との適切な連携を図るための連絡方法の検討や，子どもが成功体験を持てるような学習課題の設定と教師による声かけ等，講義内容を受けて，活発に意見交流をしています。この毎回の意見交流を通して，「目線を合わせて会話する」，「小さな変化や頑張りを見つけて褒める」等，通常学級担任がちょっとしたことを日頃から意識するだけで，子どもの学びの環境が劇的に違ってくることに気づかされます。

(学校経営コース
現職院生 兒玉かおる)



【編集後記】

今回は，本学教職大学院の授業の一部を紹介しました。紹介文から，実際の授業の様子がイメージできたでしょうか。私も，より充実した授業づくりに取り組みなければと，決意を新たにしました。(長澤正樹)

◇ 用語注釈 ◇

- ※1 特定連携協力校・携協力校
ともに現職院生が在籍する学校のことです。特定連携協力校には，勤務しながら院で学ぶ教員が在籍し，そこで大学の授業も行われます。
- ※2 研究者教員，実務家教員
研究者教員とは，専門分野の研究に携わっている教員を指す。実務家教員とは，教職等の実務経験を有する教員を指す。これらの協働により「理論と実践の融合」という理念の実現を図っている。
- ※3 学校経営コース，教育実践コース
学校経営コースは，勤務校でスクールリーダーとしての役割を果たし得る人材を育成するコース。教育実践コースは，授業実践や教育相談，特別支援等の力量を他者と協調しながら向上できる人材を育成するコース。
- ※4 現職院生，学部新卒院生
現職院生とは，教職に就いていて学んでいる者，学部新卒院生とは，ストレートマスターとも呼び，学部から一般試験を経て在籍している者を指す。



次号の予告

「平成28年度にいがた教育フォーラム in March 2017」の内容を紹介する予定です。お楽しみに。

お知らせ



平成28年度

にいがた教育フォーラム in March 2017

平成29年3月4日(土)9時30分～

基調講演

講師 文部科学省大臣官房総括審議官
義本 博司 様

9:50～10:30 教育学部E棟1F大講義室

シンポジウム 10:40～12:15

テーマ「教育の未来と教職大学院の役割：
これからの新潟の教育について語り合おう」

ポスターセッション 13:10～14:40

ラウンドテーブル 14:50～16:20

情報交換会(懇親会) 17:00～19:00

お申し込み・お問い合わせ先

電話:025-262-7227(中島) FAX:025-262-7170

E-Mail と URL は下記のとおり

詳しくはHPで!

新潟大学教職大学院 News Letter 「協創」 第3号 2016.12.20 発行

編集・発行・印刷

新潟大学大学院教育学研究科教育実践開発専攻(教職大学院)広報部会
〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町 8050

問い合わせ先: kyousyokudaigakuin@ed.niigata-u.ac.jp

ホームページ URL: <http://www.ed.niigata-u.ac.jp/kyousyoku/>

ニュースレター，各種案内等はHPに随時掲載しています。